

医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターだより

ひまわり



第34号 令和4年6月
編集・発行 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター
TEL(代表) 0996-53-0326(内380)
(直通) 0996-53-4711(FAX兼用)

梅雨から夏における薬の保管方法について

今年も梅雨に入りました。梅雨から夏は、薬の保管に特に注意が必要な季節です。薬は、温度、湿度、光の3つに影響されます。薬にも使用期限がありますが、それは正しく保管した場合の期限であり、保管条件が悪ければ早く劣化してしまいます。

梅雨に特に注意していただきたいのは湿気です。

PTP包装(アルミとプラスチックの製品包装)の場合は、余程でない限り気にしなくてよいのですが、一包化薬(服用時点毎に1回分ずつまとめて分包したもの)や小児用の粉薬などは、湿気の影響を受けやすいため注意が必要です。この時期の薬の保管は、室温にて、乾燥剤と一緒に密閉容器(蓋のついたタッパーウェアや缶等)に入れておくことをお勧めします。

また、粉末タイプの吸入薬や点鼻薬も同様に湿気に注意が必要です。洗面所に置いている方もいらっしゃるかと思いますが、洗面所は湿度が高いため好ましくありません。

夏に特に注意していただきたいのは温度です。

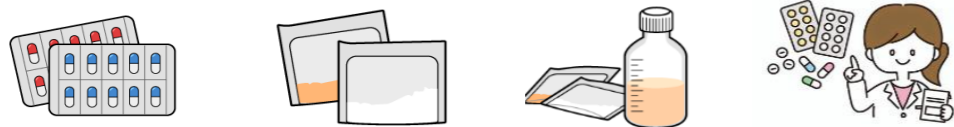
薬は室温保存のものが多いですが、室温とは1℃～30℃のことを指します。真夏の時期は、昼間の室内温度にご注意ください。

車の中は、すぐに30℃を超えてしまいますので注意が必要です。特にインスリン注射等は熱に弱い薬剤ですので、絶対に車の中に放置しないようにしてください。薬だけでなく、血糖測定用のチップも同様です。

また、薬は光にも弱いものが多いですので、**直射日光が当たるような場所には置かないようにしてください。**

薬を冷蔵庫に保管される方もいますが、冷蔵庫に入れておくのと長持ちするのでしょうか？確かに、冷蔵庫は低温、低湿度、遮光という面で、保管に適した場所ではありません。しかし、場所によっては凍結したり、野菜室等の湿気の多い場所があったり、中にはあえて多湿にする機能がついている冷蔵庫もあります。また、この時期は庫内と外気温との温度差が大きく、冷蔵庫から取り出した際に結露してしまうため、お勧めしていません。※もちろん冷所保管の薬(坐剤や注射剤等)は冷蔵庫に保管してください！

以上、常識的なことだと思いますが、患者さんの中には、適切な保管ができていない方もいるようです。お気づきになられた際は、よろしくご指導いただき、必要であれば薬剤師にご相談ください。(文責:薩摩郡薬剤師会 岩元 暢秀)



令和4年度第1回薩摩郡医師会在宅医療推進作業部会



令和4年6月10日(金)薩摩郡医師会病院会議室およびオンライン参加のハイブリッド方式で行いました。令和4年度のさつまネット研修会について、意見交換会の開催方法やテーマについて、テーマ別チーム編成および活動について協議して頂きました。出席者は会場参加20名、オンライン参加3名、欠席者5名でした。

オンラインを活用した退院時共同カンファレンスの事例紹介



主催:薩摩郡医師会病院地域連携室 会場:薩摩郡医師会病院会議室
在宅側:患者様ご家族2名、かかりつけクリニック看護師1名、グループホーム管理者、かかりつけ薬局薬剤師(オンライン参加)
病院側:主治医、プライマリー看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、MSW2名、ICT担当者

「カンファレンス開催までの流れ」

肺炎の治療が終了し退院許可は出たが、食事や水分摂取が出来ていない。施設側の受入は可能か。また、糖尿病があり入院前はトルリシティ皮下注を行っていたが、食事が取れないことからトルリシティ皮下注は中止になっている。などの課題についてカンファレンス開催を計画。その中で、かかりつけ薬局の薬剤師が、当日は一人体制になる為参加は難しいとの返事。在宅医療相談支援センターに相談があり、タブレットの貸出と参加の支援を行うこととなりました。事前に地域連携室によりサマリーが作成され、参加者にFAX等で届けられました。

「カンファレンス当日」

医師会病院会議室にカメラ、マイク、モニターを設置
在宅医療相談支援センター所持のタブレットに招待メールを送り、センター職員が薬局にタブレットを持参し、会議への参加のアクセスを行いました。

※問題発生！

招待メールが開けない事態が発生し、何回かアクセスし、やっと入ることができ、なんとかカンファレンスに間に合いました。(その間約30分)

「カンファレンスは、15時から開催」

病院主治医から今回の入院の病名や治療、治療結果や現在の課題について説明。その後プライマリーNS、管理栄養士、リハビリ担当者からそれぞれ説明。食事が思うように取れていないが、施設への退院は可能かについて協議。ご家族より「主治医や他の職種の説明をききよくわかった。今後は、退院し、これまでお世話になっている施設で看取ってほしい」との要望あり。退院について日程調整していくこととなりました。

「翌日」

タブレット回収に伺った際に、オンライン参加された薬局薬剤師に聞き取りを行った所、「退院カンファレンスに参加できてよかった。ただ、途中で画像や音声とぎれることがあった」とのお話がありました。

「今後の課題」

一人薬局で参加できなかったかかりつけ薬剤師がオンラインを活用することで参加することができたことは成果でしたが、通信トラブルが発生した為、対策について検討致します

。今後もオンラインでの参加が困難な場合は、同様の支援を行っていきたいと思いますので、ご相談ください。

薩摩薩摩郡医師会におけるMCSの活用状況

年度別	登録施設数	アカウント取得者数(職種別)										患者グループ数
		小計	医師	歯科医師	薬剤師	看護職員	リハ職	ケアマネ	社会福祉士	介護士	その他	
H28	47	176	27	9	13	50	11	36	5	11	14	17
R1	69	201	28	12	13	58	11	50	5	16	13	
R3	81	266	34	7	15	91	16	51	5	15	32	
R4	89	281	31	7	15	104	17	55	6	15	31	51

※看護職員は医療機関看護師、訪問看護ステーション看護職の合計を表しています。

【令和3年度の動向】

- ・新規参加事業所数:10箇所、退会事業所数:2事業所
- ・新規登録者28名、退会者数17名
- ・患者グループは令和4年3月現在51グループ(但し、在宅医療相談支援センターを招待しているものに限る)
- 令和4年3月の総書き込み数は、約4500件(つながりや返信メール、職場のグループ等を含む)
- ・令和3年5月にさつまネット研修会「MCSを活用した多職種連携」を開催し41名の方にご参加頂きました。

あんしんカプセル(緊急連絡票・あんしん医療連携シート)の活用状況

令和4年5月1日現在							
	総人口	65歳以上高齢者数	65歳以上の一人暮らし	あんしん医療連携シート活用者	災害時要援護者	あんしんカプセル(緊急連絡票)配置数	
さつま町	19893人	8316人	1749人	118人	336人	1976人	
薩摩川内市	東郷町	4983人	1933人	664人	0人	457人(市全体2197人)	安心キット配布数(市全体3400戸)
	入来町	4287人	1951人	737人	18人		
	種崎町	5877人	2584人	926人	7人		
	都答院町	3121人	1480人	549人	14人		
	里	1015人	547人	210人	0人		
	上飯	1002人	589人	250人	0人		
	下飯	1507人	749人	378人	2人		
鹿島	336人	190人	102人	13人			

※あんしん医療連携シートは圏域外の方5名にも記載されています。

令和3年 医療連携シート等活用状況(さつま町消防本部より情報提供)

覚知日時	事故種別	搬送先	シート種別
2021/01/09	急病	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター	不明
2021/01/12	急病	薩摩郡医師会病院	医療連携シート
2021/02/24	急病	薩摩郡医師会病院	医療連携シート
2021/03/25	急病	クオラリハビリテーション病院	医療連携シート
2021/03/31	急病	薩摩郡医師会病院	不明

※令和3年年間搬送件数:1057件(内転送を除いた件数:828件)

・搬送件数の内あんしん医療連携シート記載者は17件

・令和3年4月以降の救急搬送時のシートの持参状況や活用状況は不明。

<センターより>

在宅医療・介護資源ガイドブック令和4年度版が完成いたしました。随時お届けいたします！